まちづくりと連携した水辺空間整備手法に関する研究

研究予算：運営費交付金
研究期間：令 4～令 6
担当チーム：流域生態チーム
研究担当者：田中孝幸、鈴木宏幸

本研究では、河川における水辺空間整備事業を対象として、多様な主体との連携スキームや資金調達手法等について分析（達成目標①）を行い、連携効果の最大化や持続的な活動のためのポイントを整理（達成目標②）した。また、居心地の良さを創出する水辺空間の特徴として河川の物理特性に応じた水辺整備内容を分析し、利用者特性に応じた利用者の満足度の構成要素を検討（達成目標③）した。

① 水系環境整備における官民連携プロセスデザインの解明

② 地域の水系環境整備における官民連携を促進する技術資料の作成

・かわまちづくり等の既存の水辺整備事業を対象として連携内容や効果を整理するとともに、先進事例のヒアリング調査を行い、民間の創意工夫の事業スキームへの組込み手法や民間資金による水辺空間の持続性確保の仕組みなど連携のポイントを取りまとめた。[論文リスト 査読無し論文・国内 1,2]

③ まちづくりと連携した居心地の良さを創出する水辺空間の特徴の提示

・河川の物理環境特性から全国のかわまちづくり計画の分類を行い、ハード整備・ソフト施策の特徴を分析することで、河川の状況に適したかわまちづくり計画の特徴を明らかにした[論文リスト 査読付き論文・国内 1]

・都市部・地方部や年齢層などの属性の異なる河川利用者を想定して、水辺風景写真に対する WEB アンケート調査を行い、回答者属性毎の水辺風景写真への選好要因の傾向から、利用者属性に応じた居心地の良さを創出する水辺空間の特徴を明らかにした。

キーワード：水辺空間整備、水辺利活用、官民連携、住民連携

RIVERFRONT SPACE DEVELOPMENT METHODS IN COLLABORATION WITH URBAN DEVELOPMENT

Research Period: FY2022-2024
Research Team: Watershed Restoration Research Team,
Water Environment Research Group
Author: TANAKA Takayuki
SUZUKI Hiroyuki

Abstract: This study analyzes the collaborative schemes and financing methods with various stakeholders involved in riverfront space development projects. To maximize the effects of collaboration and ensure sustainable activities, we organized a few key points. Additionally, we analyzed the characteristics of riverfront spaces that create a sense of comfort, considering the physical characteristics of rivers in relation to waterfront development. Furthermore, we examined the components of user satisfaction on the basis of users' characteristics.

Keywords: Riverfront space development, Riverfront utilization, Public–Private Partnership (PPP), Cooperation with local residents

論文リスト

- 学術誌等による成果普及

査読付論文・国内（計 1 本）

1) 坂本貴啓, 松本遥紀, 鈴木宏幸, 田中孝幸: 河川物理環境特性を考慮した全国かわまちづくりの利活用分類の試み, 河川技術論文集,第 31 巻,2025 年 6 月

査読付論文・海外（計 0 本）

査読無し論文・国内（計 2 本）

1) 田中孝幸、尾﨑光政、崎谷和貴：官民連携による魅力ある持続的な水辺空間形成に関する事例調査報告, 土木技術資料 66-4, 2024.4
2) 鈴木宏幸、田中孝幸：多様な主体と連携した魅力ある水辺空間形成に関する事例調査報告、土木技術資料 66-12 ,2024.12

査読無し論文・海外（計 0 本）

学会発表等その他（計 0 本）